

第3回総合教育会議

日時 平成27年11月12日（木）午後2時00分～

場所 松戸市役所 教育委員会5階会議室

松戸市総合教育会議 出席者名簿

氏名	備考
本郷谷 健次	市長
伊藤 純一	教育長
山田 達郎	教育長職務代理者
松田 素行	教育委員
市場 卓	教育委員
武田 司	教育委員
伊藤 誠	教育委員

陪席者

氏名	備考
高橋 正剛	総合政策部長
鈴木 美津代	生涯学習部長
山口 明	学校教育部長
久保木 晃一	学校教育部 学務課長
宮間 秀二	生涯学習部 教育企画課長
白井 宏之	総合政策部 政策推進課長

出席者

氏名	備考
堀内 文江	政策推進課
斉藤 寛之	政策推進課
吉岡 将一	政策推進課
内海 彩	政策推進課
加藤 将秀	教育企画課
大西 真	教育企画課
藤中 孝一	教育企画課

○白井政策推進課長 それでは、少し時間が早いのですが、皆さんおそろいになりましたので。本日は、御多忙の中、平成27年度第3回松戸市総合教育会議に御参集いただきましてありがとうございます。

開会前に、お手元の資料の確認をさせていただきたいと存じます。

次第がございまして、そのほかに、資料1といたしまして「松戸市総合教育会議構成員名簿」、資料2「(仮称)松戸市教育大綱(素案)」、資料2-①「第2回総合教育会議委員意見一覧」、資料2-②「(仮称)松戸市教育大綱(素案)」に対する市民意見募集結果について、以上となりますが、不足や乱丁等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議は、この後に教育委員会会議の開催を予定しておりますので、15時30分までの90分間を予定しております。大変恐縮に存じますが、議事進行に御協力をいただければと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、会議室窓際に、前回のようにカメラを設置しておりますが、これは傍聴用に準備した別室に映像を送るものでありまして、録画はしておりませんので、御承知おき願います。

また、議事録作成の関係で、発言前にお名前をおっしゃってから発言をしていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここから本郷谷市長に議事の進行をお願いいたしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長 それでは、傍聴人について御報告いたします。

本日の会議は7人の方から傍聴したい旨の申し出があります。松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、これをお認めいたしますので、御了承願います。

それでは、傍聴人を入場させてください。

[傍聴人入場]

○本郷谷市長 それでは、これから平成27年度第3回の松戸市総合教育会議を開催いたします。

第3回目の会議の議事録署名人につきましては、松田委員及び武田委員の2名にお願いいたします。

[[「はい」と呼ぶ者あり]]

○本郷谷市長 それでは、お手元にお配りさせていただいております次第に従って議事を進めたいと思っております。

まず初めに、資料1をごらんください。こちらが10月3日付の新たな構成員名簿となっております。本会議の構成員でありました關教育委員が、10月2日、任期満了に伴い御退任され、新たに伊藤誠さんが教育委員として就任されました。このことに伴い、本会議も關委員にかわり伊藤誠委員が新たに構成員となりましたので、御紹介いたします。

それでは、新たに構成員となられた伊藤誠委員より一言御挨拶をお願いしたいと思います。

す。

○伊藤委員 伊藤でございます。この10月に教育委員を拝命いたしました。今回が初めての総合教育会議への参加ということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私はこれまで国際関係とか国際交流に携わってきた経緯がございます。現在の松戸市は国際化であるとかグローバル化に向けていろいろな施策を進めているところですので、今後教育委員として、こういう分野でできる限りの協力をして役割を果たしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○本郷谷市長 ありがとうございます。これから本会議の構成員として活発な議論を期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題に移ります。議題1「(仮称)松戸市教育大綱」(素案)について」を議題といたします。

前回の会議におきまして、主に基本理念について、委員の皆様の議論を深めさせていただきましたので、本日は4つの柱を中心に協議を行いたいと考えております。それでは、協議に入る前に、事務局より説明をお願いいたします。

○白井政策推進課長 それでは、「(仮称)松戸市教育大綱」(素案)につきましてご説明申し上げます。

まず、資料2-①をごらんいただければと思います。こちらの資料につきましては、前回の会議における委員意見を整理し、対応方針と修正案を記しておるものでございます。

次に、資料2-②をごらんください。こちらにつきましては、1ページ目に市民意見募集の集計結果、そして、2ページ目以降は市民意見とそれに対する市の考え方、そして、修正の有無と修正内容が記されているものでございます。

なお、市民意見募集の集計結果につきましては、提出者数が9人、意見件数は25件でございました。

意見の項目別内訳は、全体について、4件、教育大綱の位置づけについて、3件、基本理念について、4件、4つの柱について、13件、図について、1件の合計25件でございます。

続きまして、資料2、教育大綱(素案)をごらんいただければと思います。こちらにつきましては、さきの資料のとおり、これまでいただきましたさまざまな意見を整理し、委員の意見を踏まえ、また、市民意見を参考とし、見直しを図ったものでございます。前回の修正箇所は赤字で記しております。

それでは、修正後の素案内容について御説明をさせていただきたいと思っております。

まず1ページ目をごらんください。「背景と趣旨」につきましては変更はございません。

次に、「位置付け」でございます。松戸市総合計画と教育大綱を並列とすべきといった内容の御意見を委員及び市民よりいただきました。しかしながら、総合計画につきましては、教育委員会も含めた松戸市行政が推進すべき基本的方向を示したものであり、そのうち基本構想・基本計画は市議会の議決も受けております。そこで、総合計画の後に(基本構想・

基本計画) と加えまして、議決を受けた部分だけが上位計画があることがわかるようにいたしました。しかし、図につきましては、上意下達のイメージがあるとの御意見がございましたので、上下の並びから横並びの図に変更させていただいています。

2ページ、「対象期間」は、文章の変更はございません。ただし、図につきましては、総合計画の下に記されていた教育大綱の対象期間を一番上に移動し、見やすくしております。

そして、3ページの「基本理念」についてでございます。「みんなで育てる みんなが育つ 松戸の現在 (いま)、未来」につきましては、変更はございません。

これに続く副題でございますが、これは松戸市版総合戦略の目指す姿と共通ではございますが、まちづくりのための教育大綱というニュアンスが強いなどの御意見を踏まえ、『多世代が共にいきいきと暮らせるまちづくり』のために」という表現から、『多世代が共にいきいきと暮らす』ために」と変更いたしました。

また、その下に記されております文章でございますが、主語が不明確であるですとか、未来という言葉が多い、平和という視点が重要である、どのような人材を育成していくかが不明確、世界で活躍する人材の育成の視点が抜けている、自立のイメージが不明確、自立ということだけでなく優しさがわかるようにすべき、文章上一部矛盾を感じるころがあるなどの御意見をいただきました。そこで、全体の文章を整理し、重なっている部分を削除いたしました。また、平和への視点を盛り込むことや、グローバルな活躍と地域社会への還元というものを併記したり、そして、目指す市民の姿としての「自立と共助 (共生)」を表現いたしました。

その結果、「松戸に暮らす様々な世代の人たちが、自立を目指しながらも、互いに助け合って、平和にいきいきと光り輝く人生を送れるようにします。そのために、松戸市は、すべての市民が、生涯を通じて学ぶよろこびを享受できるように支援し、未来に向かって成長できるようにします。また、市民・地域社会・学校・行政が共に学び合い、互いを育てるような環境をつくります。そして、学んだ人たちが、学習成果をより広い世界での活躍に役立てるだけでなく、地域社会にも還元できる仕組みを整え、「自立したまち“松戸”」の力を醸成します。」といたしました。

続いて4ページ、「基本理念を支える4つの柱」でございます。

柱の1につきましては、具体的に想起できる表現にすべきや、学校不要論ととられない表現にすべきなどの御意見をいただきました。

そこで、学校不要論という誤解をされない表現とするため、「それぞれの能力や個性に合った学びたい環境で学べるようにします」から、「学びたい」を取りまして、「それぞれの能力や個性に合った環境で学べるようにします」といたしました。見直したのはその1カ所でございますが、教育委員会の自立性を損なわないように具体的な施策の自由度を担保するため、大綱の表現はより幅広い解釈ができる現行の表現方法としております。

次に、柱の2についてでございます。子育てと教育は区別するなり言葉を吟味すべき、幼児教育と家庭教育は大切なのでわかるようにすべきなどの御意見をいただきました。

そこで、教育大綱であることから、「子育て」という言葉は「子どもの教育」あるいは「子どもの成長」という言葉に置きかえ、「松戸で子育てしたいと選ばれるように」を「“松戸で子どもを教育したい”と選ばれるように」と変更いたしました。

続いて「市民みんなで子育てする子どもにやさしいまち松戸」を「市民みんなで子どもの成長を支える子どもにやさしいまち松戸」といたしました。

また、その下に続く文章を幼児教育、家庭教育の大切さを表現するために、「子どもの権利が尊重され、健やかに成長できるように、家庭での教育を支援し、学校・地域社会と一緒に子どもの成長を支援できる体制を整えます。また、誰もが安心して子どもを育てることができ、すべての子どもたちが幼児のときから地域社会の一員として様々な教育を受け、健全に成長することができるまちを目指します。」といたしました。

次に柱の3についてでございます。自立したコミュニティという概念をしっかりとったほうがいい、ふるさと意識の大切さをしっかりとるべき、高齢者だけを切り離すのではなく、違う世代間の相互の共生が大切、高齢者の活躍という表現は、いつまでも動き続けなければならないというようでも高齢者にも周囲にも負担であるなどの御意見をいただきました。

そこで、「高齢になってもいつまでも元気で暮らせるように」を「市民みんなが、高齢になってもいつまでも元気で暮らせるように」とし、また、「高齢者が生きがいを持って活躍できるまち松戸」を「高齢者が生きがいを持って共に暮らし続けられるまち松戸」といたしました。

そして、続く文章の2行目の「また」以下につきまして、「また、子どもの時からふるさと意識を醸成し、市民が自らの力で、身に付けた知識や経験を活かして地域の課題を解決していく地域コミュニティの形成を目指します。」とし、「市民が自らの力で」という部分を強調すること、また、ふるさと意識の大切さを加えさせていただいております。

次に柱の4についてでございます。松戸の誇りを持つことの大切さをうたうべき、文化の多様性は賛成だが、可能性を最大限に発揮し、の意味がわからない、松戸にゆかりのある選手を応援することで松戸に誇りと愛着を持つ人がさらにふえるという表現はおかしいなどの御意見をいただきました。

そこで、「松戸の文化の多様性と可能性を最大限発揮し」を「松戸の文化の多様性と可能性を最大限発揮できる環境を整え」といたしました。

そして、続く文章の2行目の「また」以下を「また、スポーツを振興するとともに、松戸にゆかりのある選手を応援します。文化やスポーツの振興を図ることで、松戸に誇りと愛着を持つ人が更に増えるようにします。」とし、松戸への誇りを持つことの大切さを広く捉えられるようにしました。

なお、4つの柱の一部修正により、3ページの図の円の中の記載も変更させていただいております。

以上が教育大綱（素案）の修正後の説明となります。

事務局からは以上でございます。御協議のほどよろしく願いいたします。

○本郷谷市長 事務局からの説明は以上のとおりです。前回の本会議での議論、そして、市民意見募集等を参考に修正した原案です。前回は基本理念のところ中心の議論でしたが、それとあわせて、今回4つの柱のところも議論して、できれば今回基本的な方向を決めさせていただいて、またいろいろな意見があれば、次回それを整理して最終案にしていきたい、こんなふうに思っております。ぜひいろいろな意見を述べていただければと思います。よろしく願いします。

○山田委員 山田でございます。

前日も口火を切りまして、細かい話ではなくて大枠ということで、理念中心の話をお願いしました。その責任をとってというわけではないですけれども、今回市長からも最初からお話がありましたとおり、この教育大綱の位置づけについてはさまざまな見方があると思うので、そこはやり出すと、また基本理念中心の話になると思います。これは皆さんに全然御相談もなく、今の話から言って、ぜひ4つの柱を先にとということであれば先にやって、また全体な話に最後に戻るとということで行進しているのではないのかなと思います。最後に、市長には、全体の議論をする時間をぜひとっておいていただけて進んでいただければと、まず私の進め方についての意見でございます。よろしいでしょうか。よろしければ、何点か。

○本郷谷市長 ちょっと確認しましょう。前回基本理念を中心に議論しているので、今回、まずスタートして4つの柱を中心に議論して、その後、また全体に戻るという方向の提案ですけれども、よろしいですか。

「結構です。」と呼ぶ声

○本郷谷市長 では、そういうことでやらせていただきます。

○山田委員 それでは続きまして、4つの柱につきまして、柱を4本立てたところについて、なぜこの4本かということについての背景についての説明がもしあればお聞きして、まず4本立ての大枠について議論したらいかがかと思うんですが、もし事務局からそういう御説明があれば。

○本郷谷市長 事務局のほうで、この4本に集約した経緯等、何かあれば説明をお願いいたします。

○白井政策推進課長 4つの柱ということでございますが、最初から幾つにしようというのは、あったわけではございません。最初、基本理念を検討させていただきました。基本理念を実現するためにどういうカテゴリー分けでやっていくのがよろしいのかという議論の中で、学校教育、社会教育といったような切り分けですとか、そうしたことを踏まえて検討していく中で、最終的にこのカテゴリーで切り分けることが、今後市長部局と教育委員会が連携をしながら松戸の教育に携わっていく上で、今後の行政執行していく上でベターではないかということで4つの切り分けを進めさせていただいたところでございます。

説明になっていないところもあるかもしれませんが、大枠でお話しさせていただくとそ

ういうこととございます。

○山田委員 続けてはこのぐらいにしますが、個別の中身を大ざっぱにもう少し整理を私なりにすると、1番目は、これは主にどのような学校教育をやるかということについて言っているんだろうと思います。ここは、結果、前回を経て今回の文言は何を言っているかというところ、「能力や個性に合った環境で学べるようにします」、前のときは「学びたい環境で」というところをそのように変えましたという御説明がありました。そうすると、では、この1番は具体的に何に踏み込んだのかというのが、私は明確ではないような気がしているんです。結果、「能力や個性に合った環境で学べるようにします」と、4年から5年かけて使う大綱の中で学校教育に何を求めているのかというのは、選択肢をふやそうというのが教育大綱の中で言っていることなんでしょうか。これが学校教育全般をこの1項目で押さえたときに、言いたい真意が何かというところ、方向づけというのがいまいし見えな思っています。

2番目は何を言っているか。これは、私としては大変評価をしたいところですが、家庭教育の支援が言葉として入りました。例えば幼児のときから地域社会の一員として、つまり、幼児教育というか、恐らく今市長部局にもわたって行われている福祉の分野と教育等を絡めるんだということの強い意思表示をわざわざここで立てたということで、子どもを育てる環境を家庭教育にも言及した上で力を入れるのかということを出されましたので、これを受けて、では、教育委員会は後でどういう手を打つか、あるいは市長部局と何をやっているかということに踏み込まれたと私は思ったので、2番はおおむねどういう主張があるかということとは理解したつもりです。

3番なんですけれども、これは地域コミュニティの形成を目指しますというのは教育大綱の中身なんでしょうか。これは非常に疑問です。大事なことだと思っています。大事ではないというのではなくて、これは教育大綱の中に地域コミュニティの形成を目指しますという文言がどのような意味を持つのか、あるいは施策としてどう展開し得るのか、あるいは市長部局の何かに連携をしてほしいという意図なのか、そこら辺も踏まえて、ちょっとそぐわないと私は思っています。これだけでは言葉足らずなのか、あるいは畑が違うのか、少しそぐわないような気がしています。

4番については、これは恐らく市長が以前から言っておられる文化の香るまち松戸ということ言えば、これも松戸市にとって一つ特徴があることなんでしょうか。そこら辺が素晴らしいことなんですけれども、これも一般論から先、何を言いたいのかというところがいま一つ。文化を大切にしますということからどういう施策に展開するのかということについて、考え方とか背景とかあれば、これも大事なこと、そういうふうに捉えましたので、一応意見として、以上、申し上げておきます。長くなりました。

○松田委員 松田です。よろしくお願ひします。

この4つの柱なんですけど、ほかの自治体の大綱とはかなり視点が違うということを感じています。それは、教育というのが、例えばどなたかメッセージを送ってくださって

いた方がいらっしやいましたが、人格の完成を目指すものだという、そういう視点に立ってくるならば、人格ということの切り口にした徳、知、体というような力を育てていくという項目立てになってくるのかなと思います。それプラス文化、スポーツ、行政、そういう項立てになってくるだろうと考えられます。

発達的な視点に立つならば、乳幼児、それから小中高、そして社会教育、行政のかかわり、こういった柱立てになってくるんだろうと考えられるわけです。そこで、本市が今つくっている4つの柱というのを見てみますと、そのどちらの視点にも立っていない、非常に新しい視点で書かれている訳ですので、もう少し項目ということについてのさらに詳細な、これによってどういう力が子どもたちや市民にもたらされるのか、あるいは成長、そういうことの吟味というものが必要なのではないかと思います。

特に2番ですが、ともに育てるという視点は大変大事なことですけれども、いじめとか不登校とか、今そういった教育的な課題というよりも学校教育の抱える課題というのがありますので、そういったことに市民みんながかかわり成長を支えていくという視点等をもっと盛り込んでいくべきではないかと思いました。

それから、同じく2番ですが、「すべての子どもたちが幼児のときから」とありますが、私は乳児のときからと、もっと幅広く地域とのかかわり、あるいは大人とのかかわり、教育、そういったものを考えていくべきではないかと考えています。

それから、3番につきましては、これは福祉の文言になっているような気がいたしますので、もう少し教育的な視点でまとめられたらと思っています。

以上、感想を述べさせていただきました。

○市場委員 市場です。

今松田先生の話を受けて少し議論ができればと思うんですけれども、松田先生のほうから、教育とは人格の完成を目指すものだという視点から言うと、確かにこの大綱はそぐわないようなところがあるかな。ただ、それは、またいろいろな教育大綱があってもいいのかもしれないので、また、最後に全体の理念をという話があったので、話がぐちゃぐちゃになっちゃうかもしれないけれども、その辺のことを最後でもいいですけれども、はっきり、この教育大綱は何を目指すものなのかということのを最後にもう一回ちゃんと議論をしたいということをまずは思いました。

個々の4つの柱について言いますと、前回の議論と市民からの意見を受けていろいろ手を加えてもらって、手直しをされたということだと思いますけれども、文章としてしっくり来ないのは、例えば2番のところ、「松戸で子どもを教育したい」と選ばれるように」と、そういうふうに松戸市として努力をするということなのかもしれないけれども、選ばれるようにという言葉には何となくそぐわないようなニュアンスを感じます。

あとは市民の意見にもありましたけれども、3番のところ、「市民みんなが、高齢になってもいつまでも元気で暮らせるように」という話ですけれども、「市民みんなが」に含めているかもしれないけれども、もうちょっと障害者とか、そういう方に対する文言があっ

でもいいのかなどというように思っています。

まとめませんが、以上です。

○伊藤委員 この4つの柱全体については、いろいろな御意見があって、なぜこの4つなんだというところまで議論できると思うんです。ただ、教育大綱というのはいろいろなものがあると思いますし、要する各自治体が同じようなものをつくるのであれば、そもそも各自治体それぞれがつくる意味もないわけですから、松戸市ならではというか、ほかの自治体とは違う形になっても、市長がイニシアチブをとられて、こういうものにするんだという御意向であれば、それはそれで一つの見識かなと私も思いますので、これに沿って議論をしたいと私も考えております。

その中で、柱の1から4までなんですけれども、重要度とは言わないかもしれませんが、教育大綱として期待されているのは、子どもたちの教育というか、1番目はウエートとしては大きくあっていいのかなど。つまり、これを見ると非常にうまく4つ均等割りされているんです。均等なウエートを占めていて、見た目から言うと、非常に美しくなっているんですけれども、果たして1番目から4番目まで同じようなウエートで我々は施策を進めていくんですというよりは、1番目の学校教育について、もう少し力が入ってもいいのではないかという気がします。それをどういう形で示すかという、表現のボリュームがもうちょっとあってもいいのかなという感じがします。ただ、そうすると、少しバランスが崩れて見た目があまり美しくないかもしれませんけれども。

あと、個々の点については、1番目の点なんですけれども、「松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性に合った環境」とあるんですけれども、「能力や個性に合った環境」というのは、いまいち、よく理解できないというのがありまして、その後の説明の文章から読んでみると、ここは、「それぞれの能力や個性を伸ばせる環境」で学ぶという表現がいいのではないかと考えております。

それから、その下の説明のところなんですけれども、3行目のところで「これからのグローバル化する社会を生き抜き、活躍する人材を育成します」とありますけれども、グローバル化はこれからではなくて、もう既にグローバル化が進んでいますので、「これからの」ではなくて、「今後ますますグローバル化する社会」としたほうがいいのではないかとこのことと、それから、そうした社会を生き抜くという、生き抜くという表現は、消極的な印象を与えますので、できれば「社会の中でリーダーシップを持って活躍する人材を育成します」ぐらいの意気込みをここで示していただくほうがいいのではないかと考えております。

それから、2番目の地域社会のところなんですけれども、ゴシック体のところの「“松戸で子どもを教育したい”と選ばれるように」ということなんですけれども、私は個人的には子どもを松戸で教育したいと大人が選んでくれるというのは非常に理想的な姿だと思うんです。ですから、そういう松戸に持っていくというのは非常にいいことだと私自身は思っております。ただ、具体的にどうすればいいのかといろいろあると思うんですけれども、

一つの目標というか、理想を掲げるにはそれはいい言葉なのかなと私は個人的には思っております。

ただ、「子どもたちが地域社会のみんなと共に育つようにします」というと、地域社会のみんなとともに育つというのは表現としては甘いというか、弱いのではないかという感じがしまして、ここの表現としては、子どもたちが地域社会の中で安心して育つようにします。それと似たような表現が下にありますけれども、そういうふうにしたほうがわかりやすいのではないかと思いましたので、具体的な点ですけれども、お話ししました。

以上です。

○武田委員 私なりにこれを読んできて、まずは、表記等で思ったことをとりあえず1番から意見として申し上げたいと思います。

まず表記の仕方でやや気になる点がありまして、理念を伝えるということの結びを「まち松戸」という言葉で結ぶ点がちょっと気になるというのが、まず私の考えです。冒頭の太字の部分と、下に書かれるサブタイトルというか、説明書きの部分がちょっと一致しない部分とか重複する部分や、やや気になる部分があるので、それを上から順番に私の考えとして述べさせていただきたいと思います。

まずは、「松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性に合った環境で学べるようにします」、このハイフンをつけて何かという表題をつけたい形をとりたいのだということであれば、可能性にチャレンジする力を養いますというワンセンテンスで完結するほうが美しいのではないかと思います。

下のほうもそうなんですが、「子どもたちが自らの将来に目標を持ち、その実現に向けてチャレンジするための「生きる力」を育みます。」ということ自体が、既にその次に続く「さらに社会的に自立し」というのは、最初の1行で社会的自立のための育みますという文言が出ているので要らないのではないかと思います。

2行目として、あまりセンテンスを長くしてわかりにくくするよりも、簡潔に書くために「他」というのもよろしくないと思います。「他」ではなくて、他者ときちんと書いたほうがいいと思います。「他者と協働しながら創造的に生きていく基礎を養うとともに」ではなくて、養い、これからグローバル化する社会を生き抜き、活躍する人材を育成します。なぜならば、「能力や個性を伸ばし」という部分は既に上で述べているので、重複する必要はないと思います。

それと、この1番については、今伊藤委員もおっしゃったんですけれども、私も思っていて、ここで掲げていることというのは、下の「生きる力」という説明書きのところで3項目立てています。そのうちの「確かな学力」というところに対する項目のように感じています。「豊かな心、健やかな体」「知・徳・体」という部分にもう1項目立ててもいいんじゃないか。学校教育の中を学ぶというところだけに注目しないで、そうではない部分、道徳な部分とか、体づくりの部分というのをもう1項目、1番については立ててもいいのではないかと感じました。

2です。「松戸で子どもを教育したい」と選ばれるように、子どもたちが地域社会のみならず共に育つようにします」というこの「みんな」は、全体的に読んで、上の太字の部分がぴんと来なかったというのが事実で、先に下へ行かせていただきます。下の内容はすごくよくできていると思いました。ただ、最後の部分で気になる部分が、前述の1行目はいいんですけども、「また」というところから、「誰もが安心して子どもを育てることができ」、これが親御さんとか親に類する方の思いですね。その次、「すべての子どもたちが幼児のときから地域社会の一員として様々な教育を受け、健全に成長することが出来るまち」を目指すのではなくて、受ける子どもたちがどうなんだということなので、「…受けることができる健全な成長を目指します。」という形のほうがナチュラルな気がします。

この内容を踏まえて、上の太字の2行を精査するという形がいいと思うんですけども、これはあくまで個人的な意見で、例えばですけども、同じような意味合いではあるんですが、市民みんなで子どもの成長を支える地域との連携を深め、子どもたちが地域社会とともに育つ体制をつくります。サブタイトルとして、ここに掲げている松戸で子どもを教育したいと選ばれることを目指しますというような形でもいいのではないかと思います。

長くて申しわけありません。3についてですけども、これは、生涯教育についてだと思いますが、一番最初に気になった点は、下の説明書きのところに、「子どもの時からふるさと意識を醸成し」という言葉が書いてあるんですけども、これはどこかに入れなきゃと思ってここに飛び込んだのかなという感覚を覚えます。私の感覚では、これは4のほうに移動して盛り込んだほうがいいのではないかと考えているので、ここを省きたいと思います。

「市民みんなが、高齢になっても」、この「いつまでも」というところにリフレインすると、前述のときに、やや元気でいなければいけないのではないかといった厳しい感覚を覚えるという危惧のイメージを示唆した方がいらしたんですけども、それをまた繰り返してしまうような気がするので、「いつまでも元気で」と言わなくても、高齢になっても元気で暮らせるようにという形で十分それは表現できているような気がします。むしろこの「いつまでも」という言葉を使いたいのであれば、下の項目立てしているところの「生きがいを持って」のところに、「いつまでもともに暮らし続けられる環境を推進します。」という形のほうがナチュラルなのではないかと思います。

この下の内容についてなんですが、目指すというよりも、より強く確かな表現をしていただきたいというのがこの最後の結びのところで感じたことなんですが、「推進していきます。」とか、そういった確かにやるんだという。2の内容のように目指すというような感じで、「目指す」というのは市民にゆだねる項目であって、行政がやる場合は、やっていくんだという強さがあったほうが良いような気がするので、より強い表現のほうが、「推進します」とか、そういう結びのほうが良いような気がします。

4番、この中で一番気になりましたのが、下の説明書きの部分の「国際的な広い視野で文化を創造できる人を生むまちを目指します」と、これは若干無理な気がします。人を生

むなんてことは結果論であって、行政ができるというわけではなくて、行政ができるのは、その環境を整えることだと思うので、ここのところは絶対書き直してほしいと思っています。

それと、最後に「愛着を持つ人が更に増えるようにします」という結びのところもちょっと気になります。人がふえる数値的な感覚というのは文化に対して違和感があります。なので、例えば「心を養います」とか、そういった形のほうがよりいろいろな方に、数値的に人数がふえるのではなくて、どんな人の中にもうっすら芽生えてくるというような感覚のほうが正しいような気がします。なので、ここは私はあまりいいと思いませんでした。

その中で太字の項目のところで、やはりちょっと気になるのが、最後の結びの部分です。「松戸の街の魅力を高めます」ではなくて、これはあくまで人のことなんです。文化とスポーツをする側の人間の話なので、まちの魅力ではなくて、人の魅力を高めるんです。なので、ここの部分は、松戸の魅力を高めますでいい気がします。

もう一つ申し上げますと、さっき3で省いてしまって4に移行したほうがいいと言った「子どもの時から」というところです。もうちょっとはっきりと「松戸の文化遺産を大切に守り学ぶことから、ふるさとの意識を醸成することを目指します。」とか、そういったことをこの「子どもの時からふるさと意識を」というのをわかり易く書きかえて4の文化の項目に移行したらどうかなと思います。

以上です。

○本郷谷市長 貴重なご意見として伺います。

○伊藤教育長 教育長です。

今の武田委員さんからの意見の中に、重なることもあるんですけども、この項目4つの表記全体を通して、何のためにというのが誤解されかねない。誤解ではないのかもしれないけれども、何のためにというところを私の感覚で誤って酌み取られかねない表現が多いのかなと思いました。今の武田さんの話の中にもあったのですけれども、例えば3番で「地域コミュニティの形成を目指します」。最後にこう書いたら、では、地域コミュニティの形成を目指すためにというふうに考えるのかということになります。教育大綱なので、その辺のいろいろな皆さんの御意見の中にもあったように、生涯学習も含めて、教育というもののあり方がメインになりますから、その辺をもう一回見直していただきたいと思います。

それ以外に細かく言うと、例えば1番、2番は、これは学校教育というか、子どもたちのことが中心なので、まとめるという意識があったのかなと思います。1番については、確かに下の子どもたちというか、学力的に例えば下層の子どもの基盤をしっかりと底上げを図るとか、そういったことが以前の公教育ではほとんどメインでやれたわけですけども、今は例えば特別支援の子ですとか、あるいは学力的に上位の子も引っ張り上げなきゃいけないとか、いろいろなニーズが生まれてきているから、学校教育に限って言うと本当に多種多様で、いろいろな施策が必要になる。そうすると、いろいろな考え方が必要になりま

すから、それを全部書き上げたら本当に大変なので、逆に1番、2番ぐらいにまとめておられるのがいいのかもしれない。

それと、3番、4番で、生涯学習も含めて、松戸市全体としての年齢の幅全体、あるいは地域の幅全体を考えてのあり方ということで2点、それで2点、2点にまとめられたのかなという意識はあります。ただ、その表現で、私も2番の「選ばれるように」というのが最初に来ちゃうと、初めに申し上げたように、これが目的になるのかということになると、またそれはちょっと誤解を招きますので、順番は逆になったり表記のちょっとした工夫で表現はできると思うんですけども、その辺をもう一度考えていただきたいと思います。

それから3番は、これは前も言っていたと思うんですけども、高齢という言葉が教育大綱というものにはそぐわないような気が私はするんです。もしどうしても入れるのであれば、「いつまでも元気で暮らせるように」ではなくて、いつまでも学び続けられるようにとか、教育に関連するような表現をしていただければと思いますので、その辺も工夫をお願いします。

全体的にまたいろいろ議論があるということなので、今はこのぐらいをお願いします。

○本郷谷市長 山田委員、何かありますか。細かい議論に個別に入っておりますが。

○山田委員 論点が幾つも出ているんですけども、共通項でここで意見の相違というか、いろいろな考え方が示されたところの大きなというか、これは最後は市長がおまとめになるので、市長のお考えもぜひそのお言葉をいただきたいんですが、まちというくり方で各項目をまとめるということは、これはこだわりのあることなんでしょうか。

例えば武田さんもさっきおっしゃったけれども、1のゴシックの2行目、「可能性にチャレンジする学びのまち松戸」ということを言いたいのであれば、まちというとめ方をするので、その印象がすごく強くなるんです。私たちは、松戸市は、可能性にチャレンジしますとか、チャレンジする子どもたちを応援しますとか、多分そういう主語のほうが責任感と姿勢が出せるものになると思うんです。「まち松戸」というくり方が、これが市長のお考えの中でこれを外せないということであれば、それを否定するものではないけれども、教育大綱という位置づけの中でどうなのか。ここら辺については、いろいろ同様の意見は幾つも聞いてきているので、これはぜひ市長の御見解を聞けたらということが1つあります。

それから、全体の議論にまた次に移ると思うので、そこへのブリッジなんですけれども、恐らくこの教育大綱が他市と違っていいんじゃないかという御意見もあったけれども、私も同じである必要はない。千葉県の教育大綱がこの間決まりましたけれども、市長もごらんになったかと思うんですけども、学校教育一本やりです。子どもたちへのメッセージという読みかえ版が、子どもたち向けのもので出ている2枚ものというもので、完全に学校教育に軸を置いたものでございました。それはこの間の研修会で拝見して驚いたんですけども、あるいはこういう絞り方をすると非常に鮮やかにメッセージ性が出るなと思った

次第です。

そういった意味で、松戸市はこれでいいんだけど、だとすれば、この教育大綱が何なのかというところを最後にもう一回振り返ってみたときに、今までの細かな議論というものもまた再度見直しが必要になってくるとは思いますので、この大綱の位置づけ、この大綱がどこに働きかけているのかということはぜひ次のタイミングでまた整理したいと思います。

以上です。

○本郷谷市長 事務局で、今出てきた意見に対して何かありますか。

○白井政策推進課長 順番は逆になるかもしれませんが、大綱の位置づけという意味合いのところ、もう一度、もともとの文科省から出ている通知等を踏まえて、第1回目の会議の中で説明させていただいている部分でもあるんですが、再度、説明させていただければと思います。読み上げさせていただきますが、まず大綱の定義がございます。大綱の定義という意味合いにつきましては、「大綱は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について策定することを求めているものではないこと」というものがございます。

それに続きまして、大綱の主たる記載事項ということがございますが、「大綱の主たる記載事項は、各地方公共団体の判断に委ねられているものであるが、主として、学校の耐震化、学校の統廃合、少人数教育の推進、総合的な放課後対策、幼稚園・保育所・認定こども園を通じた幼児教育・保育の充実等、予算や条例等の地方公共団体の長の有する権限に係る事項についての目標や根本となる方針が考えられること」というくだりがございまして、千葉県のように目指す子どもの姿を記載するという選択もありますが、文科省のほうでもともと想定しているものとしては、長の権限の中で環境を整備していくということを主体的に大綱のそもそもの記載事項としては想定しているというくだりもございまして、そうした意味においては、先ほどございました千葉県のものよりは松戸市のものというものは、そもそもの教育大綱で文科省が想定しているものに近いのかなというふうには考えております。

○本郷谷市長 何か意見がありますか。

○松田委員 今のことですか。

○本郷谷市長 含めて。

○松田委員 別なことでもいいですか。4つの柱の1番、2番は、学校教育だという解釈が大勢をなしているんですけども、少し異を述べさせていただきます。この項目を見ますと、「環境で学べるように」、環境づくりをしますということであり、2番も「共に育つようにします」ということで、環境を整えれば子どもたちはそれで育っていくんだという項目になっています。ところが、学校教育では、ある程度方向性を持って教育していこうという視点もありますので、市民の自立という観点に立って自由を推奨する環境づくりを進めて責任を課すような形ではなく、学校教育ではこういった力を育みます、態度を培っ

ていきますなど、そういった積極的、前向きな人を育てる表現というようなものも必要なのではないかと思えます。

もう1つなんですが、これは4つの柱に含まれないんですけれども、松戸には大学が複数あります。ですから、そのことについてここにどのように関連するかということを考えてみますと、案の中にはぴったり来るものが実はない。辛うじて3番なのかなというふうにも思いますが、もう少し学術というような点で、学術の振興を図るところで大学と連携を図ったり、あるいは社会教育ですけれども、博物館あるいは図書館、そういったものとの関連というものを位置づけてもいいのではないかと。つまり、学術の振興といえますか、その辺の項目が欲しいという気がいたしました。

○市場委員 今の事務局からの話を聞いて、この教育大綱というものは、文科省が出したさきのほうの教育に対する基本的な考えを述べるというよりは、むしろ市長さんの権限と教育委員会のすり合わせが必要なことについて大まかな方針を書くものだという方針でつくられたということで、それであれば、こういう形も確かにありなのかなということが納得できました。

ただ、僕たちとしては、それだけだとちょっと寂しい気がするんです。もう少し学校教育について言うと、こういう子どもたちの育成を目指しますとか、そういうことを高らかに宣言するような部分があってほしいというのが希望です。それは、1番のところにある程度含めてはいるのかもしれないけれども、何かもう少しそういうことをはっきりと、こういう子どもたちの育成を目指しますとか、社会教育についてもこういうものを目指しますとか、そういうものをもう少しある程度別枠で掲げるという構成にさせていただくほうが、僕としてはありがたいという気がします。

以上です。

○武田委員 今市場委員がおっしゃったように、この中に、1と2が学校教育と言うけれども、2は家庭教育とか地域教育とか、そういうことをうたっているんだと思うんです。学校教育というものを語っているとしたら1という中で、今市場委員もおっしゃったように、何が欠けているかというふうに考えると、ここは本当に学力のことに特化しているように感じてしまって、子どもたちの成長の精神面というものの項目がもう1項立っていてもいいんじゃないかと思っています。

グローバル化とか、トップを走ってやっていける子のための整備というのは割と整えやすいのかなと思うんですが、基礎的な体力であるとか心の強さというものをどこか今の社会の中ですごく大事にしなきゃいけない問題はいっぱい起きているので、そういう部分が項目立てとして1個あっても、例えば1を2分割するでもいいと思うんです。何となくこの「生きる力」の中の箇条書きの中で、これで豊かな心の一言で解決できるような社会ではない気がするんです。なので、そこは一番手直しをしていただきたいところかなと思っています。

それと、やはり大きく気になるのは4番で、「多様性と可能性を最大限発揮できる環境」、

すごく大きいんですけども、正直私にはイメージができないんです。理念なので壮大でもいいのかもしれませんが、もう少し地に足のついたところとか、そういう部分も盛り込んだほうがわかりやすいということを感じます。

以上です。

○本郷谷市長 もし追加の意見があれば、お願いします。

○山田委員 そうすると、ここまでを踏まえて、いろいろな質問的なものも若干あって、私もさっき「まち松戸」にこだわりますかというお話もしたんですが、それに対する答弁を個別にさせていただけるのか、それは個別にはしないということなのか。それから、全体の話をしてしまおうというところに行くのか。全体がそうであるなら、こういう書き方もありだということはあるというような話もあったので、どうされますか。進行はもう……。

○本郷谷市長 今は、まず個別にいろいろな議論をしましょう。

○山田委員 まだ個別ですか。

○本郷谷市長 時間的には今ちょうど1時間ぐらいです。もう少し意見を頂いて、それから全体をもう一回議論しましょう。まちとかそういう言葉で書いてある意味について何かありますか。

○山田委員 それをもう1回、先ほど質問したことです。事務方からの答弁ということですが、「まち松戸」というくくり方は、これを変える余地がありませんかというのが質問1つ。

それから、先ほどお話をあつた文科省のところは、全体の話にかかわりますけれども、私も大綱の定義というところで、さっきおっしゃった2つは、実はあまり両立しない言い方です。定義で言っていることと、主な記載例で言っていることは一致しないんです。これは、わかりません。なぜこういう書き方を文科省がしたのかわかりませんが、根本的な施策方針を決めるものだとすれば、市長の権限に属するものについて書くものだというのは少し当たらない。

もう一つ言うと、例えばきょう配られた資料の中でも、「教育大綱の位置付け」という1ページのところに出ていますけれども、総合計画を上位計画とし、その将来像を実現するために教育施策などを推進する基本的な方向性を定めるものと、この基本的な方向性を定めるものだというものが、先ほど文科省の大綱の定義と、あるいは主な記載事項、その主な記載事項でつくっているんですというこれと整合するんでしょうか。2点質問です。これは答弁をお願いします。

○白井政策推進課長 まず、何々というまちという表現についてですが、全てにわたって委員の皆様からの意見の中で御検討いただくものだと思いますので、この部分は絶対に変えないということはありません。ただ、原案として、そういう気持ちの中でつくらせていただいておりますので、それがそぐわないということであれば、今まで出していた御意見の中でも十分違う表現で趣旨は通じるところがあると感じさせていただいておりますので、それについては、ここは固まったものだと考えておりません。

2つ目の部分、確かに定義と主たる記載事項の違いについては御指摘のとおりかと思い

ます。定義というのがかなり抽象的といいますか、私どもが原案として示させていただいた「教育大綱の位置付け」の中で書かせていただいたものをまた持つていくものとしていきますので、ある程度抽象的に書かせていただいています。それと、主たる記載事項としては、地方公共団体の長、私どもで言うと市長の有する権限にかかる事項が主たるものですといったところの矛盾点がございませけれども、私どもも必ずしも全てそうした方向の中で、市長の権限にかかる事項だけを書いているつもりは、この4つの柱あるいは理念を含めて、ないわけでございます。

定義と主たる記載事項、この2つを両方含めて検討させていただいた中で、松戸市の教育大綱としては、これから教育行政といいますか、市長部局と教育委員会の中で教育施策についての本来は範囲を定義する、そんな環境整備も含めて範囲を指定するようなこととしてつくらせていただきましたので、それをもって基本方針、基本的な方向性と言えるのかどうかというところは議論の余地はございますが、私どもが考えた基本的な方向性というのは、先ほど申し上げたこれからの教育についての範囲を決めるということをもって、基本的な方向だということで作らせていただいたものです。

○松田委員 今最初のところで、非常に重要なことをおっしゃっていただいたので確認をさせていただきますけれども、要するにまちづくり、その部分をこの会議で外すかどうかということを検討してもよろしいということですか。

○白井政策推進課長 まちづくりについて外すというよりは、「まち」と、最後に締めくくった表現について、必ずしも修正できないものではないということです。例えば基本理念につきましても、「多世代が共にいきいきと暮らす」というようなことを修正したような形の中で、違う表現でも私どもの真意と、委員さんの真意が伝わるのであれば、別の表現ができるのではないかと考えておるところでございます。

○松田委員 わかりました。少なくとも私のスタンスとしては、教育大綱につきましても、市長が策定するものだという意識があります。それで、教育委員会は協議をする、意見を述べる。協議というものの中には、決定権はないと私は考えていたんですけれども、今の内容ですと、私たちにもこういった項目に係る、文言の適否について判断する権限があるというとり方になりますが、はっきり明確なお答えをお願いできればと思います。

○高橋総合政策部長 総合政策部長の高橋です。

「まち松戸」という表現は、前回私がお答えしたのではないかと思うんですが、市長部局といたしまして、私どもはこれまで教育行政を専門に携わってきたものではなく、教育委員会にお任せするなかで、ただ、そうは言っても、まちづくりの中に子どもの教育、社会福祉も含めてですが、教育というものは欠かせないという非常に大事な柱であると、お話しさせていただいたのではないかと思うんです。市長部局の側から見た期待感みたいなものが「まちづくり」という言葉に、私どもは出てきている部分があると思っております。

今非常に難しい御質問で、「まち松戸」という表現をこの会議で変える決定権があるのかという御質問なんですが、今松田委員さんもおっしゃられたように、協議調整というのは、

恐らく決定ということではないと考えます。市長がこの大綱をつくるということは、補助機関である私どもも一緒になってこれをつくっていく、責任を持って最終案を決めさせていただくというふうに思っておりますので、今課長のほうから申し上げたのは、参考にさせていただきながら、もし検討の余地があるものなら検討をしっかりと踏まえて最終案につなげていきたいというような理解でお願いしたいと思います。

○松田委員 わかりました。そういうスタンスで私たちも臨んでいますので、確認をさせていただきます。

○伊藤教育長 ちょっと論点が、総合教育会議のあり方も含めて、大綱ということも……。これで3回目の総合教育会議で、改めて教育行政というものの難しさというか、つくづく感じています。特に学校教育というのは、本当に純粋なものを追い求めていく、そういうところがある中で多様なニーズに応じて応じていく場ですから、どこまで出ていけばいいのかという大変さがある、行政は大変ではないというわけではないんですけども、行政が持っている質というものと全く異にするものは大きいと思うんです。それをその中で教育行政をどうやって結びつけるかというのは本当に厄介な仕事だなと。こういうものにかかわって10数年になりますけれども、いまだに感じるところで、教育大綱あるいは総合教育会議というものの新しいシステムを始めて、先ほど山田委員から始まって、大綱そのものをどういった目的でつくるのかというところがなかなか絞りにくいということを感じています。

まさに先日の教育委員の研修会というのが県であったんですけども、このときに、県教委も大分悩んだと思うんですけども、こういう県からの説明が文書でありました。県の大綱の特徴という書き方で、県の教育振興基本計画とは違った切り口で、ほかのものは、千葉の大綱は違うということを言っているのですけれども、教育の根源的、普遍的な考え方について、全ての県民及び子どもたちに向けたメッセージとして作成しましたというふうに言っています。県の場合には、言っていないですけども、恐らく県の教育委員会のほうが主導してつくっているんだと私は思っています。教育大綱そのもののあり方について、各自治体がいろいろ揺らぎながら、それぞれ向かっているんだなというのを改めてその場で感じました。

そういうふうな視点に立てば、議論になっている「まち松戸」という結び方が、要するに市民の皆さんに、こういう意味でこういう結び方をしましたというふうな意図がきちんと伝われば、私たちも全部が伝わらないですけども、やはり納得せざるを得ないかなという気はあります。ただ、その場合には、そういう難しさの中で進めているから納得しますということであって、このつくられた大綱が3年なら3年の間、基本的に変えられませんか、そうなるともた違ってくるわけで、微調整をこれから繰り返しますとか、あるいは私どもの教育施策への影響はどういうふうに考えますとか、そういったことをまた新たに考え始めなきゃいけないのかなというふうな気はします。全体的な話になってしまったんですけども、そういう印象はあります。

○本郷谷市長 今まで個別の話を中心に進めてまいりましてだんだんと全体の話に移って来ましたので、僕のほうで意見を述べたいと思います。

教育に関することを全てここで書き込むということを考えているわけではなくて、市長部局と教育委員会というものがあって、それぞれの役割があって、教育委員会でやることの細かいことを全部規定したり方向を決めていくということをここで書いていくというふうには考えていません。それは、教育委員会としての専門性があるし、今までの多くの蓄積もあるので、多くのところはお任せしたいというのはベースにあります。

とは言いながら、教育委員会と市長とが全く別々に動いていいのかということ、市長としては、松戸の50万人の人をまちづくりも含めてどうしていくのかという、大きな課題があるわけです。そういう中で、当然ながら大きなかかわり合いを持って、教育というのはまちづくりとかいろいろな意味で大きな要素だと思っているので、お互いに相当連携をとりながら動いていく必要があるというのがまず基本的な考えであります。

したがって、教育大綱に何でも全て教育に関することを書くのかといたら、基本的には市長部局と教育委員会にお願いする大きな柱で書くこととして、またそれとは別に教育委員の中の専門的なところ、それは教育委員会の中で専門的なものはつくっていただきたいと思っています。

とは言いながら、子どもの目指す方向を書いてはいけないとか、そういうことはないの、先ほどあったいろいろな思いがあるので、それは僕は追加してもいいとは思いますが、それはまた、厚みを持たせるという意味ではそちらのほうがいいのかなという感じがします。

2つ目は、今教育委員会に対して何をお願いしようかということ、今までの教育委員会を見ていると、ちょっと狭いのではないかと。要するに教育ということにあまりにも自分で範疇を、それも公立学校教育とか、例えば松戸の子どもを育てるときに、松戸の中には、今私立の中学も高校も、あるいは県立高校もあるわけです。そうすると、松戸の子どもを育てるときには、県立高校のあり方というの、多くの方、松戸の市民も高校に行っているんだから、そういうことも考えていただきたい。要するに、思考の範囲をもっと広げてほしいという思いがあって、教育委員会に対して、あまり教育という視点だけではなくて、もっと広がりを持ってほしいというのがベースにあります。

例えば私立の高校に対して、松戸全体から見たら私立高校にこういう機能をもっと持つてほしい、そのために支援をしていくとか、そういうことも議論していただきたいし、あるいはそういう中で、松戸が持つ高校の意味合いも、市立高校の意味合いも考えていただいて、市立高校と松戸をどうするだけではなくて、松戸の子ども全体をどうするかという中で考えていただきたい。

それから、例えば60を超えて、ビジネスを持って仕事を持っていた人がまちに戻ってきて、社会に入って行って、これからはもっと社会貢献していただきたい、こう思っているわけですが、その人たちはなかなかギャップが大きいんです。今までいた社会と

地域で活動するということに対して、大変大きなギャップがあるんです。そうすると、そういうギャップをどう取り除いて教育をして、社会に貢献できるというのか、60歳以上になって、また社会で働けるというとおかしいけれども、貢献できるような人ももっと育成して行ってほしいと思っているわけです。そういったときに、生涯教育という視点ではなくて、社会で貢献できるような人をどう育成していくかということも範囲として見てほしいと思っている。要するにもっと広がりを持っていただきたい。

ここで書いているのは、広がりを書こうとしているんだろうと思っているんです。要するにもっといろいろな広がりの中で、例えば文化といっても、個人の楽しみだけではなくて、文化を通じてまちの活性化にもつながってくるし、いろいろな人、どんな人が集まってくるかということもそこから変わってくるし、いろいろな大きな影響力があるので、そういうものも考えていろいろやってほしい、そういう思いです。したがって、ここに限定する必要は全然ないです。もっと広げてもいいんです。要するにもっと大きな効果、影響力があるので、そういった視点でぜひ見ていただきたい。

あと学校の教育をどうしていくのかというのは、できれば教育委員会の中の会議で、もし変な方向に行くときがあれば、僕もまた意見を言うかもしれないけれども、今の松戸の子どもたちの教育の方向については特に大きな問題意識を持っているわけではないので、その中でやっていただければいい。とは言いながら、共通するところをこういうところに大きく書き込むというのは当然あっていいとは思いますが。

そういうことで、県が書いている教育大綱は、どちらかという、従来の教育はこういうものですよということを書こうとしているんですけども、そうではなくて、教育委員会にこういう視点からやっていただきたいということを私は表現していければと。だから、言葉に全然こだわっていないので、変えていただいて問題ないです。

○伊藤委員 今市長からの非常に明快なお言葉をいただいたんですけども、ただ私の受けとめ方は、今市長がおっしゃったように、教育委員会は必ずしも学校教育に限定した視野しか持っていないというわけではなくて、まさしく市長がおっしゃったような幅広い、もちろん県立の高校もあるし、障害者のこともあるし、生涯学習とか文化とか、そういったこともひっくるめた視野を持って皆さんは議論をしているし、取り組んでいるというのは、私も短い経験ですけども、そういうふうを受けとめておりますので、市長がその辺についてのもし誤解をされているようであれば、それはぜひといていただきたいと思えます。ただ、私のこれまでの印象では、今市長がおっしゃったような全てをひっくるめて教育大綱の中に取り込むことに違和感があるのではないかというのが皆さんの受けとめ方で、それでこれまでの議論で若干のそごが出てきているのかなという感じがします。ただ、私も別に、最初に申し上げたように、教育大綱がこうでなきゃいけない、学校教育に集中したものでなければいけないということは必ずしもないので、そうであれば、同じものをつくるということになっても意味がありませんから、松戸がそういうものにとらわれずに、こういう教育大綱をつくるということ自体は全然いいと思えますし、今の市長のお話で、

こういう形の全体の枠組みをやっていいのではないかというふうに思います。

あとは個々に細かいところをどういうふうに修正していくかということなんですけれども、他方、これを市民に向けて出す以上、市民がわかりやすく、かつビジュアル的にぱっと市民に浸透していくようなものであることが望ましいと思いますので、そういうことを考えると、何とかのまち松戸というサブタイトルでそれぞれ1から4まであるのも、一つの受けとめ方として、決して悪いものではないのかなというふうに思いますので、私は個人的には、これは別にこういう形で残しても特にいいのではないかと、どうしてもこれを外したほうがいいのか、そういう気持ちは持っておりませんので、その部分を申し上げたいと思います。

以上です。

○伊藤教育長　そういうお考えであれば、この背景と趣旨とか位置づけという部分には、どうしても国の規定がメインになってしまうから書きにくいのかもかもしれませんが、今のそのような意図があって、松戸市は教育大綱をつくっていますと、市民の皆さんにそういうメッセージが必要ですよ。

○山田委員　同様の意見です。これは、まちづくり大綱というのを最後にまとめて発表するとき、リード文というか、前文というか……。

「教育大綱。」と呼ぶ声

○山田委員　2度間違えました。累計3回目。まちと入るからそうなっちゃうと思うから、私はぜひ変えてもらったほうがいい。

さっき文科省の提示した定義と主な記載事項は両立し得ないのではないかと申し上げたら、総合すると、両方をにらんでつくりましたという答弁でした。そうなのであれば、あるいは一般的な感覚から言えば、どっちなのかという話なんです。その立場を明確に前文なり、あるいは表題のサブタイトルに教育環境整備についての方針とか基本方針とか姿勢とかいうような文言を入れて、それを策定しましたと入れることで誤解を避けたい。

だから、教育大綱だと、松田先生がおっしゃった、市長も入れてもいいかな、厚みを持たせるとおっしゃったので、そうとなると、教育大綱として今度はまさに教育のほうと精髓に踏み込んだものを入れていかなくちゃならない。教育の環境整備の基本方針なんだということであれば、松戸市は特徴を持った環境整備方針、その中の議論は任せると市長はおっしゃっているんだから、だから、そこはどのような子どもたちを育てるか。ほかの市では大体それを言うわけです。こういう子どもを千葉県では育てます、あるいは市ごとのものもかなり踏み込んで、このまちの子どもたちはこういうふうに育てますということを行っているけれども、私たちは違う。環境整備を整えて、そこから先のどういう教育上の何が必要なのかということについて教育委員会で議論してくれたまえという前提でつくりましたとぜひ明確にしていなければならないと思います。

○伊藤教育長　大賛成です。

○高橋総合政策部長　今教育長と山田委員さんから言われたことを十分踏まえて、発表の

ときには当然前文的なものは添えたいというふうには考えておりますので、それをどういう形かは今はまだ決まっていますが、松戸市の背景的な部分については、おっしゃっていただいたことを十分踏まえてやっていきたいと今の時点では思っておりますので、よろしく申し上げます。

○松田委員 つけ足すような形になるんですが、今非常にすっきりとした意見を2人からいただいたので、私の中でもすとんと落ちてきました。くり返しますが、このままですと、非常に誤解を受けるし、山崎直子さんは生まれなかったと感じています。つまり、松戸のためという視点だけでは、なかなかグローバルな視点というところまで生まれてこないだろうということです。ですから、今教育長と山田委員がおっしゃったようなことをぜひしていただきたい。

それから、松戸の強みということを見ると、先ほどの大学もそうですけれども、私立高校もある。それから、何より東京に近いということも一つの大きな強みになってくるだろうと思います。そうすると、教育委員会の管轄外のリソースをどうやって活用していくのかというような、そういう面で教育と関連づけてまとめていくということも必要になってくるのではないかと思います。ぜひお考えいただきたいと思います。

以上です。

○山田委員 多分予定の時間が近づいているので、全体についてというのが、いつの間にかほぼ全体に移っているような感があるので、もういいですか。

○本郷谷市長 今全体の議論に入っています。

○山田委員 この教育大綱については、先ほど私も教育長の後に発言させていただいたようなことを踏まえると、この理念というところもある違った意味の持ち方として受け入れられるのかなと思います。理念の中のサブタイトルのところを、「まちづくりのために」を直して、「暮らすために」にさせていただいて、ちょっとひっかかりの大きかったとげは抜けた感じがしますから、これはさらに十分な検討を加えていただきたいと思いますので、これの文言について、今、逐一はやめます。

ただ、これは全体のスケジュールの中で、次回は最終案に臨みたいというようなお考えがあるとお聞きしたんです。であるとすれば、公式でも非公式でも、もう一回意見交換の場を最終案のプリントアウトをする前に……。要は、次に集まったときに最終案がここに出てきてから、直す、直さないはやるべきではないと思うし、先ほどの前文をつくられるのであれば、その前文も含めて確認をさせていただく機会がないと、次にこれをここでよし、合意された事項とするのには、少しステップが、まだ階段が1段必要かなという感じを持っています。これも含めて、ぜひスケジュールについて御検討いただければと思います。

○本郷谷市長 それはいいのではないですか。きょうの意見を踏まえて、もう一回たたき台をつくって、個別にはまた意見を聞くとお思いますけれども、次回のときに、また最終的な議論をすればいいんじゃないですか。

○山田委員 では、次回、採決というか、合意……。

○本郷谷市長 最初から、これで終わりとか、そういうことは全くないのではないかと。それは、また議論して、それはいいのではないですか。

○山田委員 最後の発言にしますが、総合教育会議の議論のやり方なんですけれども、これは私たちは教育委員ということで、教育委員会の事務全般をふだん逐一見ているわけではない。ただ、報告を受けながら、大事なことについて、民間の代表として教育委員会でお手伝いさせていただいている認識なんです。市長は、市民から選ばれて、その役割として、きょう、この場にいていただいていると思うんですが、総合教育会議の場、私は、この前例のない会議が初めてで、市町村のそれぞれの運用で構わないということでこういう場があるということは非常に画期的で新しく、そして、今度は各自治体ごとの差が出てくるところだと思います、私は教育委員でその場に居合わせることは大変幸せには思うんです。

この会議の中で、市民の代表である市長と、ある意味市民あるいは民間の意見の代表である我々と、そして、教育委員会を束ねる教育長がここで何か言っちゃったから、それを言質をとるようなことではなくて、クリエイティブな意見交換をすることが最も全体の利益になるためだろうと思うときに、議事進行を市長が議事を担い続けるところが、市長も思ったことを言われなくて残念に思われるのではないかなと思っています。

これについては、今後も、この形が最善なのかどうかについて、この委員会の中でも議論して、多分恐らくもっと緊急で大きな問題について市長が意見を言いたい、あるいは意見を聞きたいという場になったときに、本当にこの場が信頼に基づいて有効な議論の場となるような議論のやり方というものを再度検討していくことが、教育大綱の議論を通じて改めて思いましたので、意見として言わせていただきます。

○武田委員 前回のときに、おやめになった副委員長が残された言葉で、言葉は文化のあらわれであるという言葉がすごく私の心に残っていて、確かに「まち松戸」の話とかもありましたけれども、きちんと大綱の理念の中で、今山田委員がおっしゃったように、それが反映できて納得できるものであれば、あってもいいのかもしれない。あるいはこれを置きかえても十分にこの言葉の意味を表現する言葉というのは幾らでも考えつくし、そのほうが明快であると私は若干感じています。

そういう中で、これが全国の市から上がってくるということをしごく意識してつくっていくのが一番大事なことだと思います。それは、これを読んだときに、松戸はこういうところなんだというのが一番出てしまう。ある意味ではチャンスでもあるので、魅力的に思ってもらいたいと思うことをアピールする場として、文化的なまちだなと思っていただけるような言葉の最善を選んでいただくことにぜひ心を尽くしてほしいというのが私の思いです。

以上です。

○本郷谷市長

教育大綱さえつくれば、これで終わりということではなくて、本当はここで言う抽象的

な話ではなくて、もうちょっと具体的な話、この4つを掲げているんですけども、もうちょっと議論はして、必要なことはもっと強力に進めていかないと、従来のままでは、あれもこれも、そこそこではなくて、本当に松戸として、力を入れてやるどころだ、教育委員会を挙げてではなくて、市を挙げてやるんだという形で課題を整理して議論していきたいと思っています。

では、よろしいでしょうか。

きょうは、お忙しいところ、どうもありがとうございました。次回、よろしくお願ひします。

○白井政策推進課長

事務連絡でございますが、次回の総合教育会議につきましては、山田委員からもご指摘がありましたとおり、進め方を整理させていただきますので、次回の日程につきましては教育委員会と調整のうえ、改めて連絡させていただきます。

本日はお疲れ様でした。